

世界選手権予選初日。ミドル予選で日本は通過者を4人出した。愛知世界選手権はこれで俄然盛り上がってきた。

世界選手権大会 2005 ミドル種目  
2005年8月7日(日)予選  
愛知県作手村菅沼  
2005年8月11日(木)決勝  
愛知県豊田市三河牧場

## 日本全員通過が目標だった

「予選4名通過おめでとう。」と日本チームのオフィシャルである宮川に話しかけたところ、「いやあ、本当は6名全員を通過させる予定だった。」とちょっと悔しそう。

しかし、過去の世界選手権において日本選手が予選を男女あわせて4名突破するなんて、今までにない大戦果だということは観客の誰もが知っている。

こうしてロケットスタートを切った日本チームに対して、期待がどんどん膨らんでくるのは無理もないだろう。

特に地元愛知の落合志保子が通過したことは大きな話題だろう。



ミドル決勝を走る落合志保子。殺到する観客  
8月11日世界選手権ミドル決勝(愛知県豊田市三河牧場)



今回ミドル1本に挑戦した鹿島田浩二。  
惜しくも予選通過ならず。(8月7日)

男子予選 A - 3800m	230m		
1 アンダシュ	ノルウェー	0:28:07	
15 トマス	チェコ	0:32:07	
20 鹿島田浩二	日本	0:34:42	

男子予選 B - 3800m	230m		
1 ティエリ	フランス	0:26:28	
15 高橋善徳	日本	0:32:46	

男子予選 C - 3800m	230m		
1 ダミアン	フランス	0:28:52	
11 紺野俊介	日本	0:32:21	
15 ダレン	NZ	0:34:01	

女子予選 A - 3400m	200m		
1 マルティナ	スイス	0:28:16	
15 エリン	アメリカ	0:36:00	
20 田島利佳	日本	0:40:57	

女子予選 B - 3400m	200m		
1 シモーネ	スイス	0:25:45	
14 落合志保子	日本	0:34:52	
15 エステル	スペイン	0:35:01	

女子予選 C - 3400m	190m		
1 ミンナ	フィンランド	0:27:22	
12 番場洋子	日本	0:33:58	
15 アンケ	ドイツ	0:34:56	

(予選通過は15位まで)

しかし今までの世界選手権では日本選手はボーダーぎりぎりのところで予選落ちすることが多く、悔しい思いをすることが多かった。しかし今回は違った。ボーダーぎりぎりには違いないが今度はボーダーの上に浮上する選手が4名もいたのだ。

「地元の利」やはり日本のテレインで多くのトレーニングを積んでいる日本選手にはそれなりのアドバンテージがあった。

「それだけじゃない。我々は強くなかった。その結果が現われているだけ。今までの選手強化が成功しているのだ。」日本チームのオフィシャル陣は自信を持ってそう言った。

## 予選後、選手のコメント

ここで愛知世界選手権期間中に毎日発行されていた「WOC サポーターズニュース」からのミドル予選終了直後の記事をひろってみよう。

### 高橋善徳

とても楽しく走れた。合宿でのオリエンテーリングそのままに、今日もオリエンテーリングできた。緊張感も特

に感じないほど、ごく普通にできた。



ミドル予選のトレインは今回初めてオリエンテーリングで使用される作手村菅沼地区。会場の周辺でファインなレッグが続く

### 紺野俊介

会場の周りで、応援のすごさを感じた。会場までの登りのレッグでトップラップを出せたのも、皆さんの応援があったから。中盤で同時スタートの人と一緒に、ある意味安心できた。

### 鹿島田浩二

ひとつ馬鹿なミスをしてしまった以外は、まあこんなもの。レースの出来は二人と同じくらい。ただ、走るスピードが二人と比較すると足りず、その分余裕が生まれず、技術的にちゃんとしなければいけないシチュエーションがうまく処理できなかったかも。

### 田島利佳

最初のコントロールで1分のミスをしてしまい、その後も細かいミスを積み重ねてしまった。しかしミスをした時でも、頭の中が真っ白になってしまう感覚は無かった。ただその後でペースを上げられなかったのが悔しい。



ミドル予選を走る田島利佳。(8月7日) 惜しも予選通過はならなかった。

### 番場洋子

タフなコースで大変だった。細々したミスを幾つか重ねてしまい、それでロスが増えた。大きなミスをした後に、それに落胆せず挽回するような走りできたのが、今日のレースの収穫。

### 番場、世界の27位へ

ミドル予選通過者だけが走ることが許されるミドル決勝が、これまた初めてオリエンテーリングが行われるという愛知県豊田市三河牧場地区で開催された。

この日、日本選手で一番目立ったのは番場洋子。日本人最高の27位でフィニッシュした。愛知世界選手権の個人戦では、この番場の記録が最高位となった。



番場洋子、ミドル決勝のフィニッシュ。三河牧場に集まった観客から大声援を受ける。(8月11日)

さすがに決勝ともなると世界のトップ選手の目つきが違ってくる。決勝の迫力を見ると、やはり予選は予選でしかなかったのだという事を思い知らされる。

このようなトップ選手に揉まれ、日本選手はなかなか上位に顔を出すことができない。しかしそこは秒差の勝負。少しでも速ければ順位はグンと上がる可能性を秘めているのもこの競技の特徴だ。

### ミドル男子決勝 - 4960m 310m

1	ティエリ	フランス	0:33:00
2	クリス	デンマーク	0:34:32
3	ヤルコ	フィンランド	0:34:49
39	高橋善徳	日本	0:44:24
40	紺野俊介	日本	0:44:54

### ミドル女子決勝 - 4030m 275m

1	シモーネ	スイス	0:32:46
2	イエニー	スウェーデン	0:34:59
3	ミンナ	フィンランド	0:35:50
27	番場洋子	日本	0:42:58
42	落合志保子	日本	0:47:59

### 嬉しいというよりびっくり

番場洋子

目標20位とは言っていたけれど、どちらかという夢に近かった。27位と知ったときは嬉しいというよりびっくりした。今日は思い切ってやろうとは思っていたし、今の自分自身の持てる力を出し切るレースが出来たと思う。

世界選手権が始まって決めてコンディションは良くなかった。予選の時から重い体を必死で動かしてきた気がする。体が動かない分、ミスを少なくすることに努めたことが良い結果に繋がったと思う。

今回ミドルで一定の結果が残せたことで、今はミドルにこだわって行きたいと思う。今回の世界選手権で、さらに上位を狙うためには、フィジカルが足りて無いと改めて自覚させられた。自分の生活環境を再度見直し、強くなるためのトレーニングを積極的に行いたい。

(WOC2005 サポーターズニュース 8月12日 Vol.5より)





ミドル決勝を走る高橋善徳  
ニッポンサポーターの応援を受け、最後のふんばり。

## やり残したことがいっぱい

高橋善徳

今日の結果は正直言って残念だった。もっとやれたはずだとの思いもあるし、個人的目標である30位も出せたとと思う。

今日は会場に着いたときから緊張していたが、大応援団とかスタートに沢山いたカメラマンとか、普段の大会では味わえない雰囲気が増幅してしまったようだ。愛知で行ってきた合宿でやったことを、そのまま普通にやろうと心がけていたが、その7-8割しかできていないように感じる。ラスポからの長いフィニッシュレーンは応援団の後押しで走りきれた。

今回の世界選手権を最後に一線を退いて若者の育成に専念しようかという思いも一時期あったが、やり残したことがいっぱいあるような気がするの、まだまだがんばって、多くの経験を積んで、さらに強い選手になりたいと思う。

(WOC2005 サポーターズニュース  
8月12日 Vol.5より)

## 応援団の大歓声が励みに

紺野俊介

普通に普通にと心がけてレースに臨んだが、あまりに普通に成りすぎて、少し悔いが残る。世界が厳しいことは判っていたが、一方ではきちんと走れば20位から30位くらいに入れると思っていた。時間的にも40分を目標に走っていたので、序盤のミスが残念だ。

今回の世界選手権では応援団の大声援が何よりも励みになり嬉しかった。応援団の期待に応える走りを見せたかったのにちょっと残念だ。

チーム事情で急遽出場が決まったミドルだが、良い結果が残せたことで自信になっている。しかしロングのレースがきちんと走れる体を作り、ロングにもこだわっていきたいと思う。



ミドル決勝を走る紺野俊介  
過去2回の世界選手権は予選で終わっていたが、愛知では日の丸をつけて決勝を走った。

## 無敵！ティエリ3連覇

ティエリ・ジョルジュ(フランス)がやった！見事ミドルで金メダルを獲得した。これでティエリは世界選手権ミドル3連覇の偉業をなしとげた。



栄光のフィニッシュへ向かうティエリジョルジュ(フランス)

愛知世界選手権が始まる前から、ティエリがミドルで3連覇できるのかということに興味が集まっていた。

日本のトレインは北欧のトレインとは大きく違う。むしろフランスのトレインのほうが日本に近い。3連覇を狙うティエリが愛知世界選手権に期待していたことも事実だ。

ティエリは日本のトレインを研究している。2005年春に富士で行われた全日本大会でティエリの姿を見た人も多いただろう。3月に見たティエリはニコニコしている姿だったが、今回の彼はまるで別人のような表情になっていた。それだけ日本での世界選手権大会にかけるものがあった。

実際、ティエリのレースラップを見るとなんとビックリ。巡航速度が速いことはもちろんだが、そのミス率の低さには脱帽モノ。ミス率2.7%！ノーミスと言ってもいいくらいだ。そのかわり各レグにおけるトップラップの数は驚くほど少なく、僅かに2個のトップ

ラップを奪っているのみである。

ティエリのレースとしては1番までは他の選手より10秒程度遅く慎重に行き、そこから速度を上げている。途中の9番で10秒のミスがあるほかはノーマスでレースをこなす。まさに完璧。

他の選手が出入りの多いオリエンテーリングを繰り返す中、ティエリは2位を1分32秒も引き離す大差で優勝をモノにした。

ここの集中力はさすが！ミドルの帝王の力を見せつけてくれた。

このオリエンテーリングの巡航速度とミス率という統計手法は日本で考案され、桜井メソッドとも呼ばれている方式である。走るペースの変化もすべてミスタイムとしてカウントされる。

一般的なレースであれば、ミス率が6%なら上出来、5%ならカンペキ、4%はありえないという感覚で使用されている。

そのミス率が2%台というのはどれだけ最初から最後までイーブンペースで走ったのかを物語っている。



ミドル決勝。スタート6分前のレーンは会場内に設置された。カメラの前でストレッチするクリス・テルゲルセン（デンマーク）。彼はその後、銀メダルを獲得する。

## シモーネ ミドル女王を奪還

シモーネ（スイス）は結果的に愛知世界選手権で4冠を達成するのだが、この日は2個目を獲得した日だった。

シモーネは2003年のスイスで4冠達成して、ミドル女王についたが、2004年のミドルではノルウェーのハンネに敗れる。しかしそのハンネも引退してもはや愛知には来ていない。再びシモーネがミドル女王の座につくことになったのだ。



ミドル決勝フィニッシュ直後のシモーネ・ニグリ（スイス：背中）、レースを競ったイエニー・ヨハンソン（スウェーデン）とレースを振り返っている

シモーネの強さは圧倒的だった。前半でミスをするものの、後半になるとベストラップを連発。33分ほどのレースで2分13秒もの大差を優勝した。巡航速度も速い、ミスも少ない。女王の賞禄たっぷりのレース運びである。



フィニッシュ後、崩れ落ちるミンナ・カウピ（フィンランド）。シモーネ/イエニーに追いつかず3位。まだ出入りの多いオリエンテーリングだが、シモーネのスピードに対抗できるのは彼女しかない。

## アジアの核弾頭？

このミドル種目で注目されたのがミンユエ・ズ（中国）。中国のこれからのポテンシャルの高さを感じさせる選手だ。

ミドル予選では女子C組で走り、日本の番場より好成績を残している。中国選手が世界選手権の予選を突破して本戦に望んだのは初めてではないだろうか？

決勝では38位に終わっているが、走りの速さに目を奪われた観客も少なくない。実際にラップを見ると、最終コントロールからフィニッシュまではシモーネと同タイムのトップラップであ

る。また決勝の12番コントロールでもトップラップを奪っている。

また予選でも彼女は最終コントロールからフィニッシュまでの最速タイムを叩き出している。

これからが楽しみな中国選手。日本と合同で切磋琢磨して、アジアのオリエンテーリングを高めて行ければどれほど素晴らしいことだろう。

愛知世界選手権がそのきっかけとなればこれほど嬉しいことはない。



ミンユエ・ズ（中国）  
この日の最速ラップでフィニッシュレーンを走る

（木村佳司）